

週明けの月曜日、突然の雪でびっくりしましたが、季節はしっかりと春に向かっていくようです。今週は公立高校の入試もあり、人も自然も春が待ち遠しいですね。

1. くらしのうつりかわり展 3月19日(日)まで

今週に入り、小学校からの見学がひと段落しました。観覧者数はついに12,000人を超え、くらし展としては過去最高の記録。展覧会終了間近ですが、13,000人に迫る勢いです。現在は明石・神戸のデイサービスセンターやケアハウスなどの社会福祉施設から大勢の高齢者の方々が観覧に訪れています。ロビーにある家具調の大型テレビ、手回しの洗濯物絞りがついた電気洗濯機、足踏みミシン、そして展示室入口にある氷冷蔵庫と電気冷蔵庫。「こんなやつたわー」「これ使ってたなー」「懐かしいなー」という声があちらこちらで聞こえてきます。展示室の中では家計簿やキャプションに書かれた当時の様子、板塀の写真、井戸端、茶の間などが好評です。かつて暮らしていた雰囲気や使っていた道具などが、遠い昔の記憶を呼び起こしてくれるのでしょうか。ヘルパーさんに昔の様子を語る口調や表情が生き生きとしてきます。また、周りの人も「私のいた地方ではこうでしたよ」と会話に参加され、人の輪が広がっていくのも楽しい時間です。今では使われなくなった古びた道具やその当時のくらしを写した写真が人々を結びつけていきます。



洗濯機と足踏みミシン



板塀には昭和30年代の写真



井戸端のポンプとたらい

2. ワークショップの様子 石臼をまわそう(大豆できな粉を)

3月11日(土)には「石臼を回そう」を実施しました。煎り大豆を用意し、石臼でゆっくりと大豆を挽いていきました。石臼には上臼、下臼にそれぞれ放射状の溝(目)が刻んであり、上臼を回転させることでものを細かく砕きながら外側へ出ていきます。目のたて方によって時計回りや反時計回りがありません。単純な構造に見えるのですが、上臼の穴から大豆を入れて、少しずつ砕かれていく様子にはしっかりと工夫があり、参加した子どもも大人も感心してゴロリゴロリと臼を回しました。しだいに、きな粉の匂いがロビーに広がり、「おかあさん、お餅が食べたい」「今日はあべかわにしよう」という会話が聞こえてきました。



上臼の小さな穴から大豆が入っていきます



ボランティアさんと



パパといっしょにゴロリ、ゴロリ

3. おっちゃんの紙芝居 あと1回ありますよ!

開催日 3月18日(土) 時間 1回目11:00~、2回目14:00~
博物館観覧料が必要です。

(小中学生のみなさんはのびのびパスポートが利用できます)



大人気です

4. 第13回 明石現代作家展(市展審査員・実行委員作品)

現在、2階ギャラリーでは「第13回 明石現代作家展」を開催しています。市展審査員と実行委員の方々の作品が鑑賞できます。日本画・洋画・彫刻・工芸・書道・写真の数々をゆっくりとご覧下さい。

会期：3月16日(木)～3月23日(木)
2階ギャラリーのみの観覧は無料



日本画



写真



彫刻

5. 小さな展覧会「藤井 栄 絵画展」

1階では小さな展覧会として「藤井 栄 絵画展」を開催中です。藤井氏は1918年に大久保町で生まれ、1981年には日展に入選されました。その後、明石の文化芸術の振興に尽力され、明石市文化功労賞も受賞されました。2003年に85歳で逝去され、2005年遺族の方から19点が当館に寄贈されました。今回、100号の大きなキャンバスに油彩で描かれた静物画を6点展示しています。画面いっぱいに広がる大胆なタッチをご覧下さい。



残花



赤い部屋



会期：4月16日(日)まで
博物館観覧料が必要です。(小中学生のみなさんはのびのびパスポートが利用できます)

<http://www.edi.akashi.hyogo.jp/bunpaku/>

明石市立文化博物館 編集：永田浩史